

2. 事業の目的と概要	
（１）上位目標	零細漁民の収入の増加を基に、持続可能な生活の向上をはかる
（２）事業の必要性（背景）	<p>バリ州は、この 20 年間で観光開発が急速に進み、経済発展が続く一方、所得の格差が顕著に広がっている。特に、開発から取り残された零細漁民の生活収入は 2 万ルピア（2 ドル）／日と困窮を極めている。本事業の対象となるセラングン島は、人口約 4,500 人（約 620 世帯）、その中で、小型漁船等を所持し操業している漁民は約 70 名、約 70 世帯（約 500 人を養う）程度で、それ以外の大多数が、漁船を持たない零細漁民である。観光開発により、零細漁民の漁場である沿岸域の環境の悪化・汚染により水産資源が減少し、漁獲量の増加は望めない。この状況の下、生活苦からカメ卵や珊瑚の採取などを行うものも出はじめ、環境問題を引き起こしている。そのため、零細漁民が、現状に適した仕方で、一定の収入を確保できるようになることが、大きな課題となっている。</p> <p>本事業は、上記の課題を解決するため、既に、2010 年 1 月から本団体がパイロット事業として実施している海藻養殖（キリンサイ）を同島全体に普及させ、零細漁民の収入を安定化させることを目的としている。</p> <p>尚、キリンサイ養殖は、東南アジア各国で広く行われており、環境に優しく、技術的にも容易なため老若男女の参加が可能である。スギノリ目ミリン科に属するキリンサイは、直接食することもできるが、粘質多糖類で、ビール製造、食品加工、パソコンのインク生産などに使われるカラギーナンを含み、全世界で年間 250 万トン（原藻乾重量）以上の安定した需要がある。本事業は 3 年計画の事業とし、バリ州内並びにキリンサイ養殖がまだ紹介されていない近隣の島々（スンバワ島など）で、零細漁民が、自らの組織を作り連携しながら、居住地域から近い浅瀬の海で養殖事業を実施し、安定した収入の確保と生活の向上を可能にする。</p>
（３）事業内容	<p>キリンサイ養殖事業と同事業の近隣地域への拡大</p> <p>セラングン島の零細漁民の中から、貧困の度合いを示す幾つかの条件を満たし、且つ宗教的リーダー・カパラデサが推薦する約 100 世帯（約 700 人）を直接受益者とし、その生活向上のため以下の活動を実施する。対象者は、100 世帯から参加する 100 人で、老若男女は問わない。しかし、就労機会の少ない女性の参加を期待している。本活動は、先ず、本団体会員で 20 年の経験を有する本部日本人海藻専門家（以下、本部専門家）の監督の下、現地在住の日本人専門家（以下、専門家）並びに専従日本人スタッフ（以下、日本人スタッフ）が、既にパイロット事業を実施している零細漁民 10 世帯の代表約 10 人に対し、将来のリーダーとして本事業を自立運営するために必要な技術指導、特に組織作り、並</p>

びに養殖事業の拡大に関して養成を行う。また、専門家並びに日本人スタッフが、10人のリーダー（養成中）と協力し、養殖事業の経験を持たない対象者約100人を指導し、養殖事業を実施する。以下、時系列的に活動を列記した。

（ア）100人の本事業実施者選抜

本養殖事業に興味を持ち実施を希望する約100世帯を選定し、その中から100人を選抜する。（ただし、1世帯から複数の希望者が出た場合できる限り考慮するが、2人目は女性を優先する）

（イ）種苗の準備と資機材の調達

現地在住日本人専門家他の主導で、養殖事業に必要な種苗を確保・育成するため、種苗供給源として一定量の海藻を継続栽培する。また、ロープ、竹、干し場作成用の木材、および小型作業船用の船外機などを調達する。

（ウ）養殖筏の製作指導と養殖作業の指導

当団体オリジナルの養殖筏をデモンストレーションとして製作し、ロープの掃除や食害生物の除去、海藻養殖の定期的な管理について指導を行う。

（エ）収穫・乾燥・保管の指導

不純物の除去、乾燥方法、保管方法について指導を行う。

（オ）販売に関する指導

製品の質と価格の関係等を説明し販売価値を高めるとともに、販売先の選定や条件の交渉を漁民とともに行い、収入増加に導くよう彼らをバックアップする。

（カ）バリ州内に於ける体験学習の実施

事業実施者の代表約10人とリーダー10人が、バリ州内のキリンサイ養殖場を実際に訪れ、身近な同業者との交流を深め、有効な手法・工夫を本事業に積極的に取り入れていく。また、キリンサイ養殖実施者のネットワーク作りのきっかけとする。

（キ）外国におけるキリンサイ養殖事例学習

養殖現場における一方的な技術移転を避けるため、本部専門家が約100人の漁民を対象に、東南アジア各地で行われているキリンサイ養殖の事例をレクチャーする。これにより、他者の創意工夫、自分たちの活動との比較、技術的な改善点などの「気づき」および自助努力を促す。

（ク）リーダー養成を兼ねたリーダーミーティングの実施

毎月、専門家、日本人スタッフと10人のリーダーが集まり、事業に関する評価・改善を図る。さらに、この10人が、自立して本事業を継続し、また、他の地域と養殖事業を連携・拡大できるようになるため、リーダーシップ、経営管理、品質管理、マーケティングなど必要な養成を行う。

（ケ）キリンサイ養殖ネットワーク拡大のための準備

	<p>バリ州内及び近隣の島々（特に、スンバワ島）に於ける漁民の生活状況や収入について、日本人スタッフ並びに 10 人のリーダーが、情報収集を行ったうえで、さらに、本部事業担当、専門家等が候補地を訪問し、自然条件や社会的条件等の課題の検討を行い活動拡大のための準備を行う。</p> <p>（コ）協同組合設立の準備</p> <p>次のステージへの足がかりとして、協同組合設立のための素地づくり・地固めを行う。また、組織化されたグループとして、生産規模を活かしたマーケティングリサーチを行い、キリンサイの安定した販路を確立させる。</p>
<p>（４）持続発展性</p>	<p>キリンサイ養殖は、収穫された海藻の一部を種苗として再利用するため、新たに種苗を購入せず事業を継続することが出来る。また、グループが形成され、養殖従事者の協同組合化を進め、住民全体が持続可能なより安定した生活を維持することになる。</p>
<p>（５）期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>事業終了までに、以下の成果達成を目指す。</p> <p>成果 1：直接受益者である零細漁民 100 世帯の収入が増える。</p> <p>指標 1-1: 100 人が養殖事業の基礎を習得し、養殖事業が収入を得るための一つの手段となるようにする。</p> <p>指標 1-2: 100 世帯のほとんどが、現在の平均月収約 60 万ルピア（60 ドル）を 2 倍以上に増やすことが出来る。</p> <p>成果 2: 直接受益者である女性に就労機会を与える</p> <p>指標 2-1: 母子家庭や DV の犠牲になっている女性が、多少の現金収入を得ることで、その家族の生活向上に繋がる。</p> <p>指標 2-2: 一般女性が副収入を得ることで、今まで子どもに不足していた蛋白源や下痢止め、風邪薬などを購入出来、また、トイレや水周りの整備など住環境の改善に貢献することが出来る。</p> <p>指標 2-3: 女性グループの組織化に向けた土台作りが出来る。</p> <p>成果 3: 直接受益者である零細漁民 100 人の種々の能力と知識が向上する。</p> <p>指標 3-1: キリンサイの収穫、乾燥、管理等の工夫・自助努力によって製品の質の向上と収入の増大に繋がることを学ぶ。</p> <p>指標 3-2: 直接受益者である零細漁民 100 人が組織化され、養殖従事者の協同組合設立を目指すことが出来る。</p> <p>成果 4: 直接受益者の中の 10 人のリーダーが、他地域の漁民と協力・連携することの可能性と重要性を理解する。</p> <p>指標 4-1: キリンサイ養殖事業従事者ネットワークを構築出来る。</p> <p>指標 4-2: バリ州内外の近隣地域に、同事業を零細漁村の村興しのひとつのあり方（パイロット）として紹介することが出来る。</p>